

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		担当教員	
授業科目名		学年	1	開講区分	前期
		田原 和樹			
ITリテラシー		必修・選択	必修	授業形態	講義
				時間数(単位)	30(2)
				授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)					
総合病院・大学院で実地経験がある教員が授業を実施する。Windows(ハード)で、Microsoft365(TEAMS=学校の授業資料のダウンロードや課題提出等、必要な操作が出来る。Word=効率が良く効果的な文書作成する。Excel=様々な計算処理を行い必要書類を作成し、また顧客のデータを管理する。PowerPoint=プレゼンテーションを作成し発表する。)を操作し、将来の仕事や学生生活において効果的に活用出来るように学習する。「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」をキーワードに、問題解決プロセスにおける情報の集め方・使い方、思考の仕方、言語の使い方を学ぶ。授業は演習形式で進める。					
〔到達目標〕					
学習を通し、社会へ出た際、どのようなジャンルの仕事であっても、事務処理に困らないためのスキルを習得します。操作をマスターし、さらに機能の理解を深め、将来自分自身の仕事に役立つ使い方が出来るよう学習していきます。また、学習を通じてICT活用のマナーを習得していきます。					
〔使用教材、参考文献等〕					
随時、必要に応じてプリント配布					
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)	
1	Teamsの基本操作			自身のPC環境と学校のネットワーク環境について理解し、授業データのDL、小テスト、課題の提出等、OneDrive等、必要な操作が出来る。	
2	Word (online) の基本操作			Wordで文書を作成し編集・保存する事が出来る。 作成した文書の保存が出来る。	
3	Word (online) の基本操作 2 表現力をアップする機能 (画像の挿入と編集) 文書の印刷 表作成機能			文書に画像を挿入し、編集が出来る 学習した機能を利用しチラシを作成出来る 作成した文書を印刷出来る	
4	ページ設定 (用紙サイズの設定・余白の設定・印刷の向きの設定) ハガキ作成 テンプレートの活用			必要に応じて、用紙サイズや余白、印刷の向きを設定出来る。学習した機能を利用し、指定された各種はがきを作成出来る (販促・お知らせ) テンプレートを活用し効率よく文書を作成する事が出来る	
5	小テスト (Word) 図形描画機能			図形描画機能がわかり、自由に操作が出来る。 学習した機能を利用し、簡略地図が作成出来る／館内案内図を作成出来る	
6	ビジネスメールの作成①outlookを使用したメール送信受信 1 ビジネスメールのマナーとメールの作成・送受信・添付ファイル 1			ビジネスメールのマナーと正しいレイアウトがわかりメールを作成する事が出来る (送信・受信・返信)	
7	ビジネスメールの作成②outlookを使用したメール送信受信 2 好感を持たれるメールの作成と送信・返信・添付ファイル 2			相手の状況に応じた気遣いのあるメールの文章を作成出来る/返信のマナーがわかり、正しいマナーでメールを作成し送受信できる CC/BCCを理解し正しく活用する事が出来る 添付データをPDFに変換する	
8	小テスト (ビジネスメールの活用とマナー)			好感を持たれるメールを作成出来る。OfficeアプリのデータをPDFに変換しデータを添付ファイルを作成・送信する事が出来る	
9	Excel (online) の基本操作 表の作成と、関数の基礎 (SUM関数/AVERAGE関数/MAX関数)			四則演算が出来る 基本の関数を活用出来る (SUM/AVERAGE/MAX関数) 表に桁区切りを設定出来る。表の書式を自由に変更する事が出来る (線の種類・セルの色・配置)	
10	グラフを作成する グラフ構成要素の書式の設定方法			どんな分析にどのようなグラフが必要かわかる (棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフ) 入力したデータから簡単な操作でグラフを作成出来る	
11	PowerPoint (online) の基本操作1 PP課題作成①			プレースホルダの編集・アニメーションの設定・ノートページの入力出来る。PowerPointで課題を作成出来る①	
12	PowerPointの基本操作 2 PP課題作成②			PowerPointで課題を作成出来る② 課題を完成出来る	
13	小テスト (PowerPoint 課題を発表する) ①			作成した課題を発表出来る①	
14	小テスト (PowerPoint 課題を発表する) ②			作成した課題を発表出来る②	
15	期末試験実施			期末試験として課題を提出出来る。課題の発表が出来る 評価と評価の解説を実施する	
〔評価について〕 課題発表 (30点×2回)、課題発表振り返りレポート (10点×2回)、および授業振り返りレポートの提出 (20点) で評価を行う。			〔特記事項〕 OfficeはOnlineのアプリを使用する		

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講 区分	前期	担当教員				
授業科目名		内堀 昭宜										
		理学療法基礎科学						必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)
〔授業の学習内容と心構え〕												
担当教員は、長年臨床において動作分析の臨床と研究に従事してきた理学療法士である。本講義では、理学療法に必要な科学・物理学・生物学の内容の基礎知識を確認し、理学療法学の基礎を身に付けることを目的とする。												
〔到達目標〕												
・理学療法にかかわる科学の基礎的な内容を理解する ・国家試験の問題演習を通して、必要となる知識と考え方を身につける												
〔使用教材、参考文献等〕 ●適宜、プリント配布					〔準備学習・時間外学習〕 ＜準備＞日常にある数字に興味をもち、数字の意味を考える ＜時間外学習＞講義内容と小テストの振り返りを行い、知識の再確認をする							
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)							
1	【オリエンテーション】 授業の目的の確認 【イントロダクション】 なぜ、基礎科学が必要か				理学療法における科学が必要な場面を知る							
2	【数字を扱う】 ～リハビリテーション料(単位)とコスト①～				医療保険と介護保険の違いを理解し、理学療法を実施することで生じるコストを計算できる							
3	【数字を扱う】 ～リハビリテーション料(単位)とコスト②～				医療保険と介護保険の違いを理解し、理学療法を実施することで生じるコストを計算できる							
4	【運動強度】 ～心機能と肺機能～ ～実習：運動負荷量を計算してみよう～				理学療法評価に用いる指標を計算できる ★次週、レポート提出★							
5	【歩行能力】 ～歩行にかかわる数値～				歩行を評価する指標を知る							
6	【歩行能力】 ～実習：歩行にかかわる数値を算出してみ				歩行を評価する指標を使い計算できる ★次週、レポート提出★							
7	【神経】 ～神経伝導速度～				神経伝導の速度を求める計算ができる							
8	【科学・研究】 ～有効なEBPTを選択するために～ ～基本統計量～				文献抄読を通して、科学が理学療法の価値に影響することを知る ★次週、レポート提出★							
9	【力と運動】① ～“力”とは、運動の法則～				身体を使うときに生じる“力”について説明できる							
10	【力と運動】② ～力のつり合い、ベクトル～				身体を使うときに生じる“力”について説明できる							
11	【仕事とエネルギー】① ～仕事と仕事率～				仕事から考える効率的な動きを説明できる							
12	【仕事とエネルギー】② ～力学的エネルギー～				身体に生じるエネルギーを説明できる							
13	【波・光・音】 ～物理療法機器と効果～				物理的エネルギーがもたらす効果を説明できる							
14	★期末試験★(60分) 第9回～第13回 講義内容				試験を通して自分の知識の深さを理解する							
15	☆返却と解説☆ 講義のまとめ、振り返り				講義を振り返り、理学療法における科学の意義を再考する							
〔評価について〕 ●小テスト(全4回予定) ●レポート課題(全3回予定) ●期末試験					〔特記事項〕 実施予定日・内容は進捗状況により変更する場合がある 配布資料に重要項目は書き込むこと							

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		岩佐 浩之									
心理学		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
創業100年の老舗の三代目として、飲食店を経営し、また多岐にわたりビジネスを立ち上げ(国内・インド・フィリピン・中国・モルディブ・タイなど)現在に至る。流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業までを経験する。現在3社を経営し介護施設の理事を務めるカウンセラーが心理学をわかりやすく講義します。											
〔到達目標〕											
理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや携帯・構造に関する基礎的知識を学ぶ 自分とのコミュニケーション・1対1のコミュニケーション・・・1対多グループコミュニケーションを学び、活用できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
毎回の授業で配布					世の中の動きを見て質問する						
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	講師自己紹介・オリエンテーション				一年の流れを説明する。一年後の自分の姿をイメージできるようにする。						
2	精神的健康				心の病気について知り、対処法を身に付ける						
3	コミュニケーション				自分とのコミュニケーションの取り方を学び、使えるようになる。1対1のコミュニケーションの取り方を学び、使えるようになる。コミュニケーションの構造を知り、実践できるようになる。						
4	人脈の作り方・整理の仕方				現在の人脈を整理する経営に必要な人脈は、どんな職業の人が整理する。人脈を管理する方法を学び習得する。時代の流れ						
5	目的・目標とは何か				目的・目標の設定の仕方を学び、使えるようになる。 トータルパースンについて学び、目的・目標とリンクして設定できるようになる。						
6	目標達成の仕方				①情報 ②モチベーション ③イメージ ④願望 1 6のステップ一つ一つを理解する。						
7	目標達成の仕方				⑤決断する ⑥目標設定 ⑦プランを立てる ⑧夢泥棒 ⑨仲間探し 1 6のステップ一つ一つを理解する。						
8	目標達成の仕方				⑩環境づくり ⑪行動する ⑫毎日の成果のチェック						
9	目標達成の仕方				⑬習慣にする ⑭潜在意識に落とし込む ⑮実現する						
10	身体的健康				病気のメカニズム・対処法を身に付ける。						
11	心理テスト				エゴグラムの実施 自分の心の癖を知る。						
12	経済的健康 その2 世の中				社会保障・税金などの知識を身に付ける。						
13	質疑応答 ・ 復習				紙に書いて提出						
14	質疑応答 ・ 復習				後期の課題を見つける						
15	定期試験										
〔評価について〕					〔特記事項〕						
期末試験50% 小テスト50%で59%以下を不合格とする					ーコマは、ジグソーパズルのワンピースのようなものです。欠席した際は、情報を取って補ってください。						

2025 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名								岩佐 浩之			
心理学				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
創業100年の老舗の三代目として、飲食店を経営し、また多岐にわたりビジネスを立ち上げ(国内・インド・フィリピン・中国・モルディブ・タイなど)現在に至る。流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業までを経験する。現在3社を経営し介護施設の理事を務めるカウンセラーが心理学をわかりやすく講義します。											
〔到達目標〕											
理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや携帯・構造に関する基礎的知識を学ぶ 自分とのコミュニケーション・1対1のコミュニケーション・1対多グループコミュニケーションを学び、活用できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
毎回の授業で配布					世の中の動きを見て質問する						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	前期復習					心理学のきほんを振り返る					
2	考え方①					心を守る考え方を学び身に着ける					
3	考え方②					自分の意見が言える思考回路を身に着ける					
4	カウンセリング学					話を聞くお基本姿勢・カウンセリングの流れ					
5	カウンセリング学					ラポール・質問技法・コンプリメントについて学ぶ					
6	マーケティング（流通心理学）・マネジメント					自分自身を社会にどう売り出していくか学ぶ					
7	マーケティング（流通心理学）・マネジメント					様々なマーケティングの基本理論を学ぶ					
8	マーケティング（流通心理学）・マネジメント					様々な企業のマーケティングを学ぶ					
9	コトラー心理学					コトラー心理学の基本を学び、自分の考え方に取り入れる					
10	スティーブン・コーヴィ					7つの習慣を中心に、考え方の基本を学び、いつか使えるようになる。					
11	スティーブン・コーヴィ					7つの習慣を中心に、考え方の基本を学び、いつか使えるようになる。					
12	質疑応答					稲盛和夫の考え方を学ぶ。					
13	前期のまとめ					社会に出てから活かせるように、まとめを作成する					
14	後期のまとめ					社会に出てから活かせるように、まとめを作成する					
15	定期試験										
〔評価について〕					〔特記事項〕						
期末試験50% 小テスト50%で59%以下を不合格とする					ーコマは、ジグソーパズルのワンピースのようなものです。欠席した際は、情報を取って補ってください。						

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員 小川 達也		
授業科目名 保健体育		必修・選択	必修	授業形態	演習	時間数(単位)	30(2)	授業回数 15
〔授業の学習内容と心構え〕								
理学療法士科の専任教員が、治療の際に役立つコンディショニング技法を習得する授業を行なう。 遅刻欠席はせず、授業内だけでなく自主練習をして授業に臨んでほしい。								
〔到達目標〕								
様々なコンディショニングを学び、実践可能なレベルへ到達する。前期はストレッチングを学び、後期はテーピングを中心に行う。								
〔使用教材、参考文献等〕				〔準備学習・時間外学習〕				
なし				授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。				
回	〔授業概要〕 木曜3限 開講			到達目標(できるようになること)				
1	場所:PT棟-5階 ストレッチングの実践-可動域の変化			腓腹筋、ハムストリングス、大殿筋のストレッチの習得 関節可動域の変化を実感する。12種の筋の暗記				
2	場所:PT棟-柔道場 ストレッチングの実践-筋出力の向上			大胸筋、広背筋、腸骨筋、大腿四頭筋のMMTと ストレッチ後の筋出力の変化を実感する				
3	場所:PT棟-5階 セルフストレッチの実践			対象となる12種の筋に対してセルフストレッチを 行い実践出来るようにする				
4	場所:PT棟-柔道場 パーソナルストレッチングの実践			対象となる12種の筋に対してパーソナルストレッチを 行い実践出来るようにする				
5	場所:PT棟-柔道場 アクティブストレッチとパーソナルストレッチの実践			セルフアクティブストレッチと パーソナルアクティブストレッチの習得				
6	場所:NAS アクティブストレッチ後のバスケ			レクリエーションとしてパーソナルアクティブストレッチ 後にバスケットボールを行う				
7	場所:PT棟-5階 筋別パーソナルストレッチングの実践			各自で12種の筋に対してパーソナルストレッチングを おこなえるようにする				
8	場所:PT棟-5階(中間テスト) 筋の暗記と起始停止の理解後のストレッチング			完全に12種の筋を暗記している状態で起始停止を 漠然と理解し、ストレッチングを行う				
9	場所:PT棟-5階 PNF-マッスルエナジーテクニックの実践			PNF(ホールドリラックス)、 マッスルエナジーテクニックの習得を行う				
10	場所:PT棟-5階 アクティブリリーステクニックの実践			アクティブリリーステクニック、ASTERのテクニックを 12種の筋に対して行えるようにする				
11	場所:PT棟-5階 期末テストに向けたストレッチングの実践			期末テストに向けて、掛け声、態勢、気遣い、声量など 練習する				
12	場所:NAS 期末テストに向けたストレッチングの実践			期末テストに向けて、掛け声、態勢、気遣い、声量など 練習する				
13	場所:PT棟-5階 期末テスト			12種の筋のうちから3種の筋をランダムで選出し、 そのパーソナルストレッチングを実践する				
14	場所:PT棟-5階 期末テスト			12種の筋のうちから3種の筋をランダムで選出し、 そのパーソナルストレッチングを実践する				
15	場所:NAS 前期の振り返り&レクリエーション			前期の振り返りとレクリエーションをNASで行う				
〔評価について〕				〔特記事項〕				
評価は〔確認試験〕、〔小テスト・レポート〕の合算とする。〔確認試験〕は中間(50点)期末(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				実技需要の為、身だしなみを重要視します。 ピアス、ネックレスの着用は減点対象とします。 注意1回につき、2点をマイナスしてゆきます。 仮に10回注意を受けた場合はその時点で80点となり、A判定は前期後期共に100点をとらなくては いけなくなりますのでご注意ください				

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名				必修/ 選択	必修	授業 形態	演習	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
理学療法士科の専任教員が、治療の際に役立つコンディショニング技法を習得する授業を行なう。 遅刻欠席はせず、授業内だけでなく自主練習をして授業に臨んでほしい。											
〔到達目標〕											
様々なコンディショニングを学び、実践可能なレベルへ到達する。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
配布プリント					授業で行なったことを反復練習による基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	足関節テーピング 導入					足関節内販捻挫に対する基礎テープの導入-テーピングの種類と作用					
2	足関節テーピングーアンダーラップの練習					現場で使える足関節内販捻挫に対するホワイトテープ・固定テーピングを習得する					
3	足関節テーピングーホワイトテープでの固定手順☑					現場で使える足関節内販捻挫に対するホワイトテープ・固定テーピングを習得する					
4	足関節テーピング					現場で使える足関節内販捻挫に対するホワイトテープ・固定テーピングを習得する					
5	足関節テーピング					現場で使える足関節内販捻挫に対するホワイトテープ・固定テーピングを習得する					
6	足関節テーピング					現場で使える足関節内販捻挫に対するホワイトテープ・固定テーピングを習得する					
7	足関節テーピング・小テスト5分足関節					現場で使える足関節内販捻挫に対するホワイトテープ・固定テーピングを習得する					
8	足関節テーピング					現場で使える足関節内販捻挫に対するホワイトテープ・固定テーピングを習得する					
9	足関節テーピング					現場で使える足関節内販捻挫に対するホワイトテープ・固定テーピングを習得する					
10	足関節テーピングー小テスト4分足関節					現場で使える足関節内販捻挫に対するホワイトテープ・固定テーピングを習得する					
11	足関節テーピング					足関節内販捻挫に対する応用テーピングを習得する					
12	足関節テーピング					足関節内販捻挫に対する応用テーピングを習得する					
13 14	2 限分-期末テスト(2限分)					3 分以内に足関節内販捻挫固定テーピングを行う					
15	機能学的セルフストレッチング					部位別ストレッチ方法の習得					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は実技試験で行う。 試験は小テスト(60点＝30点×2回)と総括後の期末テスト(20点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部									
授業科目名				学年	1	開講区分	前期	担当教員			
				岩佐 浩之							
コミュニケーション論				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
・専門商社で北米・東南アジアを主とした貿易業務に携わり、異文化コミュニケーションの大切さ、難しさを身を持って体験した講師が、長年の経験をもとに、人の中で生きることが必須となる人間とつ基礎となる”コミュニケーション”を講義を行う。同時に人間関係を円滑にし、職業人として身につけるべき自己表現・接遇・マナー・ホスピタリティ精神の要素も含めた社会的スキルの大切さを意識し、専門的知識と基礎的知識の基礎を習得する講義を行う											
〔到達目標〕											
理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや携帯・構造に関する基礎的知識を学ぶ 自分とのコミュニケーション・1対1のコミュニケーション・1対多グループコミュニケーションを学び、活用できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕						
毎回の授業で配布					世の中の動きを見て質問する						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	コミュニケーションとは、バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーション。メラビ					コミュニケーションの基本を学び理解する					
2	グループでの会話の基本、クッション言葉					自己主張ができ、グループの中でコミュニティがきちんととれるようになる。					
3	仕事上のコミュニケーションの基本、交渉説得プレゼン					交渉技術・プレゼン技術を学び、使えるようになる					
4	自己覚知・アンガーマネジメント					感情とコミュニケーションの関係を学ぶ					
5	社会的スキルとコミュニケーション					挨拶・敬語・丁寧語が使えるようになる。					
6	スマホを使ったコミュニケーション					メール・line・FAX・手紙のルールを身に付ける。					
7	人・環境・プロセスWINWIN					サービスとコミュニケーションについて学び活用できるようになる。					
8	社会的スキルⅠ対人行動					社会的スキルの実践 習得をする。 5接客 6訪問 7訪問（謝る おわびをする）					
9	社会的スキルの実践					・社会人の基本的マナー・教養、身につけるべき知識を学習すし 日々の行動から意識し活用できるようにする					
10	サービスマインドⅠ					・サービス社会をふまえて。サービスマインドとは？、サービスとは？について学習する実践の場に活かす					
11	サービスマインドとは					・サービスの姿勢を習得満足度を向上させると同時にやりがいを持ってサービスを提供できる力を身につける					
12	サービスマインドⅡ サービスの基本要素					・人（あなた）と顧客／顧客満足度の関係を整理し、適切な行動と顧客理解、顧客ニーズを事例とともに学習する					
13	サービスマインドⅡ サービスの基本要素					・企業、店舗における経営理念、それを実現するための方針、 サービスの方法を学び実践できるようになる。					
14	1回～13回までの復習					・定期試験対策					
15	定期試験										
〔評価について〕					〔特記事項〕						
期末試験50% 小テスト50%で59%以下を不合格とする					ーコマは、ジグソーパズルのワンピースのようなものです。欠席した際は、情報を取って補ってください。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部								担当教員	
授業科目名				学年	1	開講 区分	前期	前田 祐貴			
				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
担当教員は大学病院で現役歯科医師として勤務している経験がある。その臨床経験に基づいて、人体の構造と発生を理解するために、構成する各系統のうち運動器系（骨格系）と内臓系の形態的特色と働き、ならびに個体発生の基礎的事項についての知識を習得する講義を行う。											
〔到達目標〕 人体の構造を機能と関連づけて理解し、疾患の病態を理解する前に、身体の各部位の構造を理解できるようにする。											
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 解剖学											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	・オリエンテーション ・第1章：解剖学総論（その1）					解剖学的位置や方向を示す解剖学用語を理解し、説明できる。					
2	・第1章：解剖学総論（その2）					人体の構成を理解し、説明できる					
3	・第1章：解剖学総論（その3）					人体の発生を理解し、説明できる。					
4	・第2章：骨学総論					骨の形態や構造を理解し、説明できる					
5	・第3章：関節靱帯総論					関節の構造や機能などを理解し、説明できる。					
6	・第4章：筋系総論					筋の種類や構造を理解し、説明できる					
7	・筋骨格系のまとめ					前回までの範囲を理解し、説明できる。					
8	中間テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	・第7章：内臓器系 内臓器官の基本構造					内臓器官の基本構造を理解し、説明できる。					
10	・第7章：内臓器系 循環器（心臓）					心臓の基本構造を理解し、説明できる。					
11	・第7章：内臓器系 循環器系（動脈）					動脈系の構造や名称などを理解し、説明できる。					
12	・第7章：内臓器系 循環器系（静脈、胎生期の循環）					静脈系や胎生期の循環の構造や名称を理解し、説明できる。					
13	・内臓系（基本構造・心臓・動静脈・胎生期循環） のまとめ					中間テストから前回までの範囲を理解し、説明できる。					
14	・前期のまとめ					前期の範囲を理解し、説明できる。					
15	・期末テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は客観試験および授業中の小テストもしくは課題で行う。 中間試験35%、期末試験35%、確認試験30%で59%以下を不合格とする					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名								前田 祐貴			
解剖学Ⅰ				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
担当教員は大学病院で現役歯科医師として勤務している経験がある。その臨床経験に基づいて、人体の構造と発生を理解するために、構成する各系統のうち運動器系（骨格系）と内臓系の形態的特色と働き、ならびに個体発生の基礎的事項についての知識を習得する講義を行う。											
〔到達目標〕 理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや神経系の形態、構造に関する基礎的知識を学ぶ											
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 解剖学											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	神経学総論：神経系の区分、神経組織					神経系の構造を学習し理解する					
2	中枢神経系の構成、末梢神経系の構成、髄膜、脳室系					白質、灰白質の意味する構造を理解する。神経背索の機能区分を理解する					
3	中枢神経系：脳室系、脊髄					脊髄の外形、断面を理解する。					
4	中枢神経系：脊髄、脳幹：延髄					脳幹の構造と働きを理解する					
5	中枢神経系：脳幹・橋、中脳					橋と中脳の構造と働きを理解する					
6	中枢神経系：網様体、中脳、小脳					中脳の構造と機能を理解する					
7	中枢神経系：小脳、復習					小脳の網を理解する					
8	中間試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	間脳、大脳半球					間脳、大脳半球の表面と区分を理解する					
10	大脳皮質、髄質、大脳皮質の機能局在					大脳皮質と髄質の構造を理解する。ブロードマンの分類を理解する					
11	大脳皮質の機能局在、大脳基底核					大脳基底核の構造と働きを理解する					
12	上行性伝導路					温痛覚、粗大触圧覚の上行性伝導路の経路を理解し覚える					
13	上行性伝導路、下行性伝導路					識別性触圧覚、非意識性深部感覚上行性伝導路の経路、下行性伝導路を理解し覚える					
14	下行性伝導路：錐体路、錐体外路					下行性伝導路（錐体路・錐体外路）の経路を覚え理解する					
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は客観試験および授業中の小テストもしくは課題で行う。 中間試験35%、期末試験35%、確認試験30%で59%以下を不合格とする					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名								前田 祐貴			
解剖学Ⅰ				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
担当教員は大学病院で現役歯科医師として勤務している経験がある。その臨床経験に基づいて、人体の構造と発生を理解するために、構成する各系統のうち運動器系（骨格系）と内臓系の形態的特色と働き、ならびに個体発生の基礎的事項についての知識を習得する講義を行う。											
〔到達目標〕											
人体の構造を機能と関連づけて理解し、疾患の病態を理解する前に、身体の各部位の構造を理解できるようにする。											
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 解剖学											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	末梢神経系：脊髄神経					脊髄神経とは何か。頸神経を理解する					
2	脊髄神経：頸神経叢、腕神経叢					頸神経叢、腕神経叢の構成を理解する					
3	脊髄神経：腕神経叢の枝、鎖骨上枝					腕神経叢の構成と鎖骨上枝の筋枝、皮枝を理解する					
4	脊髄神経：腕神経叢鎖骨下枝					筋皮神経など鎖骨下枝を理解する					
5	脊髄神経：鎖骨下枝					尺骨神経、腋窩神経、橈骨神経の筋枝、皮枝、マヒを理解する					
6	脊髄神経：鎖骨下枝					橈骨神経。正中神経の筋枝、皮枝、マヒを理解する					
7	脊髄神経：胸神経、腰神経、仙骨神経叢					筋枝、皮枝を理解する					
8	中間試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	脊髄神経：坐骨神経					坐骨神経の構成、筋枝、皮枝、障害を理解する					
10	脊髄神経：陰部神経、仙骨神経、脳神経					脳神経を理解する					
11	脳神経					脳神経の名称、構成、機能、障害を理解する					
12	脳神経					脳神経の名称、構成、機能、障害を理解する					
13	自律神経：交感神経、副交感神経					交感神経の構成、経路、副交感神経の特徴を理解する					
14	自律神経：副交感神経					副交感神経の特徴を理解する					
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は客観試験および授業中の小テストもしくは課題で行う。 中間試験35%、期末試験35%、確認試験30%で59%以下を不合格とする					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名								前田 祐貴			
解剖学Ⅰ				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
担当教員は大学病院で現役歯科医師として勤務している経験がある。その臨床経験に基づいて、人体の構造と発生を理解するために、構成する各系統のうち運動器系（骨格系）と内臓系の形態的特色と働き、ならびに個体発生の基礎的事項についての知識を習得する講義を行う。											
〔到達目標〕 理学療法士として必要・不可欠な人体の成り立ちや形態、構想、機能に関する基礎的知識を学ぶ											
〔使用教材、参考文献等〕 標準理学療法学・作業療法学 解剖学											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	・第7章内臓器系 循環器系（リンパ）					リンパについて理解し、説明できる。					
2	・第7章内臓器系 呼吸器系（鼻・咽頭）					鼻・咽頭について理解し、説明できる。					
3	・第7章内臓器系 呼吸器系（喉頭）					喉頭について理解し、説明できる。					
4	・第7章内臓器系 呼吸器系（気管・気管支）					気管・気管支について理解し、説明できる。					
5	・第7章内臓器系 呼吸器系（肺）					肺について理解し、説明できる。					
6	・第7章内臓器系 呼吸器系（胸郭・縦隔）					胸郭・縦隔について理解し、説明できる。					
7	・内臓系（リンパ・呼吸器系）のまとめ					前回までの範囲を理解し、説明できる					
8	中間試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	・第6章感覚器系 外皮					外皮について理解し、説明できる。					
10	・第6章感覚器系 視覚器					視覚器について理解し、説明できる。					
11	・第6章感覚器系 平衡感覚器					平衡感覚器について理解し、説明できる。					
12	・第6章感覚器系 嗅覚器					嗅覚器について理解し、説明できる。					
13	・第6章感覚器系 味覚器					味覚器について理解し、説明できる。					
14	・後期のまとめ					後期の範囲を理解し、説明できる。					
15	期末試験					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は客観試験および授業中の小テストもしくは課題で行う。 中間試験35%、期末試験35%、確認試験30%で59%以下を不合格とする]					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部				担当教員			
授業科目名		学年	1	開講 区分	前期	石野 竜平			
		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 (4)	授業 回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
担当教員は歯科医師の知見に基づいて、人体の構造と発生を理解するために、構成する各系統のうち運動器系（骨格系）と内臓系の形態的特色と働き、ならびに個体発生の基礎的事項についての知識を習得する講義を行う。生理学は、人体の機能を理解する学問である。人体の生理機能を理解するために、人体を構成する各要素(細胞・組織・器官)に分解してその個々の機能を理解するとともに、それら要素間の相互関係や統合関係を学ぶ。また、機能を理解 するためには構造特有の機能の理解も同時に必要である。最終的には構造と機能を総合して、人体全体としての機能 を学修する。									
〔到達目標〕									
医療従事者として理学療法士が習得しておかなければならない人体生理反応を学ぶ。人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官などは、固有のはたらきや機能を持つ。生理学の講義を通し、これらの 機能特性、またメカニズムを知る。									
〔使用教材、参考文献等〕			〔準備学習・時間外学習〕						
標準理学療法学・作業療法学 基礎分野 生理学			専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。 また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。						
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1.2	・細胞の構造と機能			人体の機能を生部生理学の歴史と学び方を理解で きる。					
3.4	・細胞の構造と機能、拡散・浸透・ろ過、受動輸送と能動輸送			構造と機能からみた人体.各部名称.階層性,細胞から組織のあり方を理解できる。					
5.6	・人体の構成 細胞と結合組織			人体の腔所と膜,機能から見た人体,細胞のエネルギー生成にどのようなものがあるかが理解できる。					
7.8	・細胞と内部環境 細胞の働きと活動電位			細胞組織の静止電位・活動電位から一連の動きを把握し理解できる。					
9.10	呼吸とガスの運搬について			呼吸の仕組みとガス交換のメカニズムを理解する。					
11.12	尿の生成と排泄について			尿の生成メカ ニズムを理解できる。					
13.14	酸塩基平衡について			血漿PH調節の意義と緩衝系について理解できる。アシドーシスとアルカローシスとの分類が出来る					
15.16	消化と呼吸について/中間テスト			消化器官の各部位における消化メカニズムを理解できる。消化器官ホルモンについて説明できる。					
17.18	内分泌			ホルモン役割と作用、種類が分類でき内分泌線・内分泌細胞の種類を理解できる。					
19.20	代謝と体温について			栄養の定義を確認し物質代謝たんぱく質代謝を把握 しエネルギー代謝と発熱の構造が理解できる。					
21.22	生殖と発生について			男性女性の生殖機能を説明できる。更に胎児の発生を把握し分娩と授乳について理解できる					
23.24	血液組織と機能			血液の組織と役割が説明でき機能、調節メカニズムが理解できる。					
25.26	心臓と循環			心臓の働きと全身の循環経路が説明でき刺激や興奮における伝導が理解できる。					
27.28	心臓と血液			心拍出量と血圧及び調節メカニズムが説明でき物質 交換メカニズムが理解できる。					
29.30	復習/期末試験								
〔評価について〕			〔特記事項〕						
評価は筆記試験で行う。筆記試験は中間テスト(50点)と期末テスト(50点) の合計100点で評価する。評価は学則規定に準 ずる。小テストは適宜実施するが、科目評価へ含まな			毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業・体験的な実習的学習を行なう。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名						石野 竜平			
生理学		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 (4)	授業 回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
担当教員は歯科医師の知見に基づいて、人体の構造と発生を理解するために、構成する各系統のうち運動器系（骨格系）と内臓系の形態的特色と働き、ならびに個体発生の基礎的事項についての知識を習得する講義を行う。生理学は、人体の機能を理解する学問である。人体の生理機能を理解するために、人体を構成する各要素(細胞-組織- 器官)に分解してその個々の機能を理解するとともに、それら要素間の相互関係や統合関係を学ぶ。また、機能を理解 するためには構造特有の機能の理解も同時に必要である。最終的には構造と機能を総合して、人体全体としての機能 を学修する。									
〔到達目標〕									
医療従事者として理学療法士が習得しておかなければならない人体生理反応を学ぶ。 人体やそれを構成する各要素(細胞、組織、器官など)は、固有のはたらきや機能を持つ。生理学の講義を通し、これらの機能特性、またメカニズムを知る。									
〔使用教材、参考文献等〕									
標準理学療法学・作業療法学 基礎分野 生理学									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1.2	・オリエンテーション 呼吸とガスの運搬について				軌道の構成と役割を理解でき呼吸不全と病的呼吸の分類が出来る。				
3.4	尿の生成と排泄について				心臓の構造と役割が理解できる。更に尿の生成メカニズムを理解できる。				
5.6	酸塩基平衡について				血漿PH調節の意義と緩衝系について理解できる。 アシドーシスとアルカローシスとの分類が出来る				
7.8	消化と呼吸について				消化器官の各部位における消化メカニズムを理解出る。 消化器官ホルモンについて説明できる。				
9.10	内分泌について				ホルモン役割と作用、種類が分類でき内分泌腺・内分泌細胞の種類を理解できる。				
11.12	代謝と体温について				栄養の定義を確認し物質代謝たんぱく質代謝を把握しエネルギー代謝と発熱の構造が理解できる。				
13.14	生殖と発生について				生殖の仕組みを理解し、性ホルモンの働き、月経周期を理解できる。				
15.16	運動生理について/中間テスト				筋力と持久力について把握でき、筋収縮エネルギー源を説明でき筋力全般を理解できる。				
17.18	・生理学窓復習 細胞と組織・中枢神経と末梢神経・反射				前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる				
19.20	・生理学窓復習 脳と脳幹・大脳皮質・骨格筋・感覚と伝道経路				前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる				
21.22	・生理学窓復習 血液・心臓・循環・血漿				前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる				
23.24	・生理学窓復習 呼吸・尿の生成と排泄・消化と呼吸				前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる				
25.26	・生理学窓復習 内分泌・酸塩基平衡・代謝				前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる				
27.28	・生理学窓復習 生殖と体温・運動生理				前期で学んだ総復習と国家試験に頻出する問題を解答解説できる				
29.30	定期試験				国家試験を想定したテスト及び解答解説				
〔評価について〕				〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業・体験的な実習の学習を行なう。					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	1	開講 区分	前期	担当教員 中島 圭吾			
授業科目名		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 (4)	授業 回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕 担当教員は長年、総合病院において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、運動学に必要な力学・運動器の構造と機能に関するキーワードを覚え、人間の身体に運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解し、人間の基本的動作(起居動作、歩行動作など)のなりたち、異常が生じた場合の現象も理解することを目的とする。									
〔到達目標〕 ・人間の動作を観察・説明する際、運動学専門用語を正確に使って表現できるようになる。 ・解剖学で学んだ構造の知識を元に、歩行動作を中心に起居動作の特徴を説明できるようになる。 ・力学の知識をもとに、身体の方法の基本、障害発生時の問題など説明できるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 基礎運動学第6版補訂中村隆一他著（医歯薬出版） (電子版) Teamsにて資料データ配布			〔準備学習・時間外学習〕 基礎科目である解剖学（筋骨格系）の知識が必須となるため、解剖授業の予習復習を徹底すること。基礎的な算数・数学の知識（三角関数・比率など）を復習すること。						
回	〔授業概要〕 月曜2限,木2限 開講			到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 運動学の基礎 1 身体部位・関節の名称			生理検査の内容が理解できる					
2	運動学の基礎2 身体運動の面・軸			心不全の基礎が理解できる					
3	運動学の基礎3 関節運動の名称と可動域(1)			心不全の基礎が理解できる					
4	運動学の基礎4 関節運動の名称と可動域(2)			心不全の病態とレントゲンを照らして考える事が出来る					
5	運動学の基礎5 姿勢と肢位について			閉塞性動脈硬化症の基礎知識を理解できる					
6	重心について			閉塞性動脈硬化症の基礎知識を理解できる					
7	重心と力のモーメント			その他の内部障害が理解できる					
8	重心と力のモーメント2			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	力の単位 Nについて			その他の内部障害が理解できる					
10	関節の構造と機能1			滑膜関節の構造を理解し、図示説明できる。					
11	関節の構造と機能2			各関節ごとの分類・運動の特徴、筋の働きについて説明できる。					
12	脊柱の構造と機能1 脊柱の連結と生理的彎曲			脊柱の彎曲の特徴と姿勢について理解し、説明することができる。					
13	脊柱の構造と機能3 脊柱各部の関節の特徴と運動範囲			腰椎の運動と身体各部にかかるストレスについて説明できる。					
14	体幹とその運動 胸椎・胸郭の動きについて			体幹の筋を位置関係を層構造とともに理解し、説明することができる。					
15	前半の振り返り 昼間確認試験			前半の復習として、不足分の解説・問題演習などを通じて理解を深める。					
〔評価について〕 評価は〔確認試験〕、〔小テスト・レポート〕の合算とする。〔確認試験〕は中間(30点)期末(45点),〔小テスト・レポート〕は計25点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。社会情勢（新型コロナ）に応じて変更となる場合がある。			〔特記事項〕 毎授業においてノートをとること。Microsoft Teams上にアップされた資料を閲覧できるように、タブレット・ノートPCを推奨する（スマホでは見にくい可能性あり）。実施内容は社会情勢（新型コロナ）に応じて変更となる場合がある。学内でおこなう小テストはスマホでの受験は禁止とする。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		中島 圭吾									
運動学(前期16～30)		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 (4)	授業 回数	30		
〔授業の学習内容と心構え〕											
担当教員は長年、総合病院において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、運動学に必要な力学・運動器の構造と機能に関するキーワードを覚え、人間の身体に運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解し、人間の基本的動作(起居動作、歩行動作など)のなりたち、異常が生じた場合の現象も理解することを目的とする。											
〔到達目標〕											
・人間の動作を観察・説明する際、運動学専門用語を正確に使って表現できるようになる。 ・解剖学で学んだ構造の知識を元に、歩行動作を中心に起居動作の特徴を説明できるようになる。 ・力学の知識をもとに、身体の方法の基本、障害発生時の問題など説明できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 基礎運動学第6版補訂中村隆一他著（医歯薬出版） （電子版） Teamsにて資料データ配布					〔準備学習・時間外学習〕 基礎科目である解剖学（筋骨格系）の知識が必須となるため、解剖授業の予習復習を徹底すること。基礎的な算数・数学の知識（三角関数・比率など）を復習すること。						
回	〔授業概要〕 月曜2限,木2限 開講					到達目標(できるようになること)					
16	前回までの振り返りと脊柱について					筆記試験の振り返りによって理解度を確認する 脊柱について基礎の確認					
17	脊柱の骨の確認					脊柱の骨の構造・形状・ランドマークなどを確認する					
18	脊柱を支えるその他の構造 脊柱のカーブ					椎間板の機能、動き、脊柱のカーブがどのような機能をもっているか、説明することができる。					
19	脊柱の骨の確認 2					骨模型を用いて、ランドマークを説明できるようになる。					
20	体幹の筋 1					脊柱の形状・構造の復習とともに、脊柱を支える深部の筋（横突棘筋）について、名称・形状を説明できる。					
21	体幹の筋2					脊柱起立筋・体幹前面の筋の名称、働きを説明できる様になる。					
22	腹圧について 脊柱を支えるその他の筋					体幹の固定による腹腔内圧の上昇のメカニズムと利点を説明できるようになる。					
23	呼吸1 安静吸気・努力吸息					呼吸時の胸郭の動きに関わる筋（主に吸息）に付いて説明できるようになる。					
24	呼吸2 安静呼息・努力呼息					呼吸時の胸郭の動きに関わる筋（主に呼息）に付いて説明できるようになる。					
25	呼吸3 姿勢と横隔膜の位置関係					呼吸筋の復習・体位によって横隔膜の位置がどのように変化するか、起坐呼吸の意味について、説明できるようになる。					
26	股関節の構造と機能1					股関節の骨の形態・アライメントについて説明できる。 （前捻角・頸体角について説明できる）					
27	股関節の構造と機能2					股関節の骨の形態、アライメントの特徴の復習 股関節の靱帯と機能について説明することができる					
28	股関節の構造と機能3					股関節周囲の筋について（屈曲を中心に）説明できるようになる。					
29	前期の復習・確認テスト					確認テストによって記憶の定着、理解について振り返る。 疑問点の洗い出しをする。					
30	前期の復習・期末テスト振り返り					期末テストの振り返りと解説を通じて、前期の復習とする。					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は〔確認試験〕、〔小テスト・レポート〕の合算とする。〔確認試験〕は中間(30点)期末(45点),[小テスト・レポート]は計25点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。社会情勢（新型コロナ）に応じて変更となる場合がある。					毎授業においてノートをとること。MicrosoftTeams上にアップされた資料を閲覧できるように、タブレット・ノートPC持参を推奨する。（スマホでは見にくい可能性あり）実施内容は社会情勢（新型コロナ）に応じて変更となる場合がある。学内でおこなう小テストはスマホでの受験は禁止とする。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部									
授業科目名				学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
								中島 圭吾			
運動学(後期1～15)				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 (4)	授業 回数	30
〔授業の学習内容と心構え〕											
担当教員は長年、総合病院において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、運動学に必要な力学・運動器の構造と機能に関するキーワードを覚え、人間の身体に運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解し、人間の基本的動作(起居動作、歩行動作など)のなりたち、異常が生じた場合の現象も理解することを目的とする。											
〔到達目標〕											
・人間の動作を観察・説明する際、運動学専門用語を正確に使って表現できるようになる。 ・解剖学で学んだ構造の知識を元に、歩行動作を中心に起居動作の特徴を説明できるようになる。 ・力学の知識をもとに、身体の方法の基本、障害発生時の問題など説明できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 基礎運動学第6版補訂中村隆一他著（医歯薬出版） Teamsにて資料データ配布					〔準備学習・時間外学習〕 基礎科目である解剖学（筋骨格系）の知識が必須となるため、解剖授業の予習復習を徹底すること。						
回						到達目標(できるようになること)					
1	前期の振り返り・解説、肘関節の構造と機能1					前期の復習とテストのフィードバック 肘関節の骨の構成を説明できる					
2	肘関節の構造と機能2					肘の骨構造と運動について、説明することができる。					
3	肘関節の構造と機能3					肘関節の形態の異常について説明できる 肘関節の主な靱帯を説明できる					
4	肘関節の構造と機能3					肘関節周囲の筋について説明することができる					
5	てこの原理と生体におけるてこ/手の構造概略					肘関節を中心に生体におけるてこにはどんなものがあるか説明できる。手の構造について説明できる。					
6	手関節の構造と機能1					手関節周囲の関節の構造、筋について理解し説明できる					
7	手関節の構造と機能2					手関節周囲の関節の構造、筋について理解し説明できる					
8	手関節の構造と機能3					手関節周囲の変形、末梢神経麻痺の症状について理解し、説明できる。					
9	下肢帯と下肢の構造					下肢の骨・関節の構造について理解し、説明できる。					
10	股関節の構造と機能1					股関節の構造、骨の形態、アライメントの特徴について説明できる。					
11	股関節の構造と機能2					股関節周囲の筋の働きについて説明できる。					
12	股関節の構造と機能3					股関節周囲の筋の働きについて説明できる。					
13	膝関節の構造と機能1					膝関節の構造、骨の形態、アライメントの特徴について説明できる。					
14	膝関節の構造と機能2					膝関節の構造、骨の形態、アライメントの特徴について説明できる。					
15	後期前半の復習・中間テスト準備					後期前半の復習として、問題演習などを通じて理解を深める。中間テスト準備をおこなう。					
〔評価について〕					〔特記事項〕						
評価は〔確認試験〕、〔小テスト・レポート〕の合算とする。〔確認試験〕は中間(30点)期末(45点)、〔小テスト・レポート〕は計25点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。社会情勢（新型コロナ）に応じて変更となる場合がある。					毎授業においてノートをとること。MicrosoftTeams上にアップされた資料を閲覧できるように、タブレット・ノートPC持参を推奨する。（スマホでは見にくい可能性あり）。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名		中島 圭吾									
運動学(後期16～30)		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 (4)	授業 回数	30		
〔授業の学習内容と心構え〕											
担当教員は長年、総合病院において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、運動学に必要な力学・運動器の構造と機能に関するキーワードを覚え、人間の身体に運動が生じるメカニズムを関節ごとに理解し、人間の基本的動作(起居動作、歩行動作など)のなりたち、異常が生じた場合の現象も理解することを目的とする。											
〔到達目標〕											
・人間の動作を観察・説明する際、運動学専門用語を正確に使って表現できるようになる。 ・解剖学で学んだ構造の知識を元に、歩行動作を中心に起居動作の特徴を説明できるようになる。 ・力学の知識をもとに、身体の方法の基本、障害発生時の問題など説明できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 基礎運動学第6版補訂中村隆一他著（医歯薬出版） Teamsにて資料データ配布				〔準備学習・時間外学習〕 基礎科目である解剖学（筋骨格系）の知識が必須となるため、解剖授業の予習復習を徹底すること。							
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
16	後期前半の復習と中間テスト				筆記試験によって理解度を確認する						
17	中間テストの解説・膝関節の構造と機能3				前回筆記試験の解説、膝関節周囲の筋について説明できる。						
18	膝関節の構造と機能4・筋発揮について				膝関節周囲の筋を題材に、筋発揮のメカニズムを説明することができる。						
19	足関節・足部の構造と機能1				足関節・足部を構成する関節と運動について理解し、説明できる。						
20	足関節・足部の構造と機能2				足関節・足部を構成する関節と運動について理解し、説明できる。						
21	足関節・足部の構造と機能3				足関節・足部を構成する関節と運動について理解し、説明できる。						
22	足関節・足部の構造と機能4				足関節・足部を構成する関節と運動について理解し、説明できる。						
23	バイオメカニクス概論				基礎的な物理学の知識が運動学にどのように利用されるのか説明できる。国試問題に回答できる。						
24	運動学習				運動学習に関する基本用語、基本的な考え方を理解し、説明できる。						
25	歩行概論1				歩行周期について説明できる。						
26	歩行概論2				歩行における各関節の動きについて説明できる。						
27	歩行概論3				歩行時の各関節の動きとともに、重心の偏位を説明できる。						
28	歩行概論4				床反力について説明することができ、それが歩行周期ごとにどのように変化するか説明できる。						
29	頭部・顔面の構造と機能				頭部の骨・関節・筋の働きについて理解し、説明できる。						
30	前期の復習・期末テスト				不足分の解説・問題演習などを通じて理解を深める。期末テストにより成績判定する。						
〔評価について〕				〔特記事項〕							
評価は〔確認試験〕、〔小テスト・レポート〕の合算とする。〔確認試験〕は中間(30点)期末(45点)、[小テスト・レポート]は計25点の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。社会情勢（新型コロナ）に応じて変更となる場合がある。				毎授業においてノートをとること。Microsoft Teams上にアップされた資料を閲覧できるように、タブレット・ノートPC持参を推奨する。（スマホでは見にくい可能性あり）。							

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部	学年	1	開講 区分	前期	担当教員 須藤 久也			
授業科目名	運動機能論Ⅰ	必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義 実技	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕

担当教員は、長年医療機関において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、筋骨格系理学療法を専門とする専任教員により、骨格系(骨・関節・靱帯)、筋系、神経系に関する基本的な解剖学的・運動学的・生理学的知識を学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

・骨格系(骨・関節・靱帯)、筋系、神経系の構造と機能を理解し、説明することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

- ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学
- ・基礎運動学 第6版
- ・配布資料(Teamsにアップロード)

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1 (4/15)	オリエンテーション	授業を受ける上での注意点や成績評価について理解する。
2 (4/22)	骨格系総論	骨格系を構成する骨・軟骨・関節・靱帯の構造と機能について、説明できる。
3 (4/29)	骨格系(上肢Ⅰ) 小テスト1	上肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。
4 (5/13)	骨格系(上肢Ⅱ) 小テスト2	上肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。
5 (5/20)	骨格系(上肢Ⅲ) 小テスト3	上肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。
6 (5/27)	骨格系(上肢Ⅳ) 小テスト4	上肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。
7 (6/3)	骨格系(下肢Ⅰ) 小テスト5	骨盤・下肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。
8 (6/10)	骨格系(下肢Ⅱ) 小テスト6	骨盤・下肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。
9 (6/17)	骨格系(下肢Ⅲ) 小テスト7	骨盤・下肢の骨格系の構造と機能を理解し、説明できる。
10 (6/24)	筋系(上肢Ⅰ) 小テスト8	上肢の筋・神経系の構造と機能を理解し、説明できる。
11 (7/1)	筋系(上肢Ⅱ) 小テスト9	上肢の筋・神経系の構造と機能を理解し、説明できる。
12 (7/8)	筋系(上肢Ⅲ) 小テスト10	上肢の筋・神経系の構造と機能を理解し、説明できる。
13 (7/15)	総復習 小テスト11	上肢の筋・神経系の構造と機能を理解し、説明できる。
14 (7/22 3 限)	期末テスト対策	前期内容を総復習し、知識を整理することができる。
15 (7/22 4 限)	期末テスト 解説	テストにより授業内容の習熟度を把握する。

〔評価について〕

小テスト各5点×11回(55点)と、期末テスト(45点)の計100点で評価を行う。評価方法は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

- ・テストはTeamsで実施するため、PC/タブレットなどのデバイスを持参すること。(スマートフォンによる受験は不可)

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部							
授業科目名		学年	1	開講区分	後期	担当教員 須藤 久也			
		必修・選択	必修	授業形態	講義実技	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 担当教員は、長年医療機関において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、筋骨格系理学療法を専門とする専任教員により、骨格系(骨・関節・靱帯)、筋系、神経系に関する基本的な解剖学的・運動学的・生理学的知識を学ぶことを目的とする。									
〔到達目標〕 ・神経・筋系の構造と機能の概要を理解し、説明することができる。									
〔使用教材、参考文献等〕 ・配布資料(Teamsにアップロード)									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 神経・筋系総論			神経・筋系の全体像を理解し、説明できる。					
2	神経・筋系(上肢①) 小テスト1			上肢の神経・筋系の名称と機能を理解し、説明できる。					
3	神経・筋系(上肢②) 小テスト2			上肢の神経・筋系の名称と機能を理解し、説明できる。					
4	神経・筋系(上肢③) 小テスト3			上肢の神経・筋系の名称と機能を理解し、説明できる。					
5	神経・筋系(上肢④) 小テスト4			上肢の神経・筋系の名称と機能を理解し、説明できる。					
6	神経・筋系(上肢⑤) 小テスト5			上肢の神経・筋系の名称と機能を理解し、説明できる。					
7	神経・筋系(脊柱①) 小テスト6			脊柱の神経・筋系の名称と機能を理解し、説明できる。					
8	神経・筋系(脊柱②) 小テスト7			脊柱の神経・筋系の名称と機能を理解し、説明できる。					
9	神経・筋系(骨盤・下肢①) 小テスト8			骨盤・下肢の神経・筋系の名称と機能を理解し、説明できる。					
10	神経・筋系(骨盤・下肢②) 小テスト9			骨盤・下肢の神経・筋系の名称と機能を理解し、説明できる。					
11	神経・筋系(骨盤・下肢③) 小テスト10			骨盤・下肢の神経・筋系の名称と機能を理解し、説明できる。					
12	神経・筋系(骨盤・下肢④) 小テスト11			骨盤・下肢の神経・筋系の名称と機能を理解し、説明できる。					
13	神経・筋系(骨盤・下肢⑤) 小テスト12			骨盤・下肢の神経・筋系の名称と機能を理解し、説明できる。					
14	総復習 期末試験対策 小テスト13			後期で学習した内容の総復習を行い、知識を整理することができる。					
15	期末テスト解説			テストにより授業内容の習熟度を把握する。					
〔評価について〕 小テスト各5点×13回(65点)と、期末テスト(35点)の計100点で評価を行う。評価方法は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 ・テストはTeamsで実施するため、PC/携帯などのデバイスを持参すること。					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1年	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名		樋口 美幸									
人間発達学		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する） 大学病院で神経難病の理学療法に従事した経験のある理学療法士が授業を担当する。人間発達学では、生涯にわたる人間発達の様相を、新生児期・乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期においてその特徴を理解する。また新生児期・乳幼児期の発達評価（デンバー式発達スクリーニング検査・遠城寺式など）、反射及び粗大運動発達について詳細に学ぶ。また乳幼児のADLと遊びの発達についても理解する。											
〔到達目標〕 人間発達の原則を理解することができるようになる。・新生児・乳幼児期の粗大運動発達と反射の発達を理解することができるようになる。・運動発達、手の巧緻性、手と目の協調性、遊びの発達、コミュニケーション言語の発達、日常生活活動の発達についての概要を講義や演習等を通じて理解することができるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 随時、印刷物にて提示 【参考図書】：イラストでわかる人間発達学(医歯薬出版)											
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	オリエンテーション 小児科学総論・成長と発達＋問題演習				小児科学について成長と発達の概要を学ぶ。						
2	発達の原則・発達理論＋問題演習				小児発達の原則を学ぶ。発達理論（ピアジェ・エリクソン等）について学び、発達学の概要を理解する。						
3	粗大運動発達概要・発達検査＋問題演習				乳児の粗大運動発達の概要について理解する。発達検査（デンバー式・遠城寺式等）について学ぶ。						
4	姿勢反射の各論（脊髄レベル）＋問題演習				脊髄レベルの原始反射について詳細を学ぶ。検査法・出現と消失時期・中枢についての知識習得。						
5	姿勢反応の各論（脳幹レベル）＋問題演習				脳幹レベルの原始反射について詳細を学ぶ。検査法・出現と消失時期・中枢についての知識習得。						
6	姿勢反応の各論（中脳・大脳皮質レベル）＋問題演習				立ち直り反応・平衡反応について詳細を学ぶ。検査法・出現と消失時期・中枢についての知識習得。						
7	第3～6回講義内容の復習とグループワーク				発達検査・姿勢反射反応について問題演習やグループワークを通じて学習内容の習得と定着を図る						
8	中間テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
9	運動発達（0～3ヶ月）＋問題演習				0～3ヶ月児の運動発達について詳細を理解する。						
10	運動発達（4～6ヶ月）＋問題演習				4～6ヶ月児の運動発達について詳細を理解する。						
11	運動発達（7～9ヶ月）＋問題演習				7～9ヶ月児の運動発達について詳細を理解する。						
12	運動発達（10～18ヶ月）＋問題演習				10～18ヶ月児の運動発達について詳細を理解する。						
13	ADL(遊び・食事・排泄・更衣)				乳幼児の遊び・食事・排泄・更衣の発達について理解する						
14	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
15	第1.2回と第9-13回講義内容の復習とグループワーク				発達理論や粗大運動発達・反射反応の関係についてこれまでのグループワークを通じて学習の定着を図る						
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ予め印刷をしたり、タブレット等で記入できるように準備をしておくこと。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部							
授業科目名		学年	1	開講 区分	後期	担当教員 石野 竜平			
		必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
臨床生理を専門とする医師による講義で、病気の発生に関与する普遍的細胞レベルの傷害や分子の異常を学習・理解する。									
〔到達目標〕									
疾患の病因・病態を病理形態学的変化から理解し、疾患発生に関する基礎的知識を学ぶ									
〔使用教材、参考文献等〕				〔準備学習・時間外学習〕					
標準理学療法学・作業療法学 病理学				専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。 また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	病因、退行性病変			病因と変性・萎縮・壊死を理解する					
2	退行性病変、進行性病変			萎縮・壊死の種類と例を学び理解する					
3	代謝異常			各栄養素別代謝疾患を学習し理解する					
4	代謝異常			各栄養素別代謝疾患を学習し理解する					
5	循環障害			局所性循環障害を学習し理解する					
6	循環障害			局所性循環障害・全身性循環障害を学習し理解する					
7	アレルギー反応			アレルギー反応の種類と特徴、例を学習し理解する					
8	炎症			炎症の特徴、炎症にかかわる細胞、炎症の種類を学習し理解する					
9	中間確認テスト			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
10	腫瘍総論			腫瘍の特徴を理解する					
11	腫瘍			悪性腫瘍の特徴、転移を理解する					
12	中枢神経系疾患			脳卒中、変性疾患、脱髄疾患などを理解する					
13	中枢神経系疾患、抹消神経疾患			脳腫瘍などを理解する					
14	先天異常・遺伝疾患			遺伝疾患、染色体異常症を理解する					
15	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕				〔特記事項〕					
中間確認テスト40点＋期末テスト60点合計 100点満点で59点以下を不合格とする。				毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名								入谷 拓哉			
救急救命				必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
ライフセーバーとして救命の現場で実践活動の経験を積んだ教員が、救命の現場の実際を交えながら一般市民に求められる心肺蘇生の重要性を理解させ実践できるようになる知識や技術を習得する授業を行う。											
〔到達目標〕 ライフセービングの精神を理解し生命教育を通じ自分の大切な家族、友人、そして隣人の命を守りたいという人間的な愛の表現を学び、市民の義務の一つでもある心肺蘇生について習得する。心肺蘇生とAEDの知識と技術を身に付け、「習ったことがある」という体験レベルから「生命を救うことができる」という実践レベルになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 教科書：「救急法講習」日本赤十字社 「心肺蘇生教本」日本ライフセービング協会 教材：レザシアン、AED、三角巾、消毒液（学校準備）					〔準備学習・時間外学習〕 心肺蘇生の実施方法について自宅で練習してみる。 AEDの設置場所について、自宅周辺、学校周辺など確認しておく。 三角巾での保護の仕方を反復練習する。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション ライフセービングとは 将来像について					スポーツの世界で仕事をする上で必要なことを準備する 市民の義務の一つでもあることを感じる					
2	ファーストエイドの基本 傷病者の観察					ファーストエイドの定義について説明できる。 傷病者の観察について実践する。					
3	ケガの手当 RICE処置 止血の仕方					ケガについて説明できる。 R I C E 処置、アイシング、止血について説明できる。					
4	熱傷、心臓発作、脳卒中の手当					熱傷、心臓発作、脳卒中について、説明できる。 急病の対策と手当での方法について調べる。					
5	熱中症の手当 手当の手順					熱中症について、説明できる。 ケガに対する手当の手順について調べる。					
6	きずの手当 三角巾1 【実技】					包帯、三角巾の役割について、説明できる。 八つ折り、本結び、しまい方、ケガの保護を修得する。					
7	きずの手当 三角巾2 【実技】					三角巾でのケガの保護の仕方を習得する。					
8	中間テスト（筆記試験）					筆記テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	心肺蘇生の意義					教科書「第1～3章心肺蘇生法の意義」について調べ、なぜ心肺蘇生が必要なのか推測する。					
10	心肺蘇生の手順					教科書「第4章心肺蘇生法の実際」について、心肺蘇生の手順を準備する。死戦期呼吸について調べる。					
11	AEDの使い方					AEDについて、その必要性を理解し使い方を身につける 実際の現場の様子を推測して心構えについて準備する					
12	心肺蘇生の手順 胸骨圧迫の仕方 AEDの使い方 【実技】					胸骨圧迫の注意点を学び、実際にできるように体験する AEDの注意点について学び、実際にできるように体験する。					
13	小児乳児の心肺蘇生 CPR +AED 【実技】					教科書「第5～7章小児乳児のCPR気道異物除去」について調べる。 心肺蘇生とAEDを繰り返し練習により実践できるようになる。					
14	BLS実技検定 【実技】					実技検定による心肺蘇生とAEDの技術習得度を知る。					
15	期末試験(BLS学科検定)					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は、筆記試験と実技試験で行う。 筆記試験は中間テスト(40点)と期末テスト(30点)、実技試験は実技検定(30点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ず					〔特記事項〕 実技の場合は動きやすい服装をすること。スカートではなくズボン着用を勧めます。						

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								田原 和樹			
リハビリテーション概論				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
〔授業の学習内容と心構え〕											
担当教員は長年、医療機関において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、医療人としての事象の捉え方、対応を身につけるために、リハビリテーションとは何かについて、その定義と歴史的背景、障がいの概念、各分野のリハビリテーションの過程、医療福祉制度の知識を身につけることを目的とする。											
〔到達目標〕											
・リハビリテーションの定義、歴史、障がいの分類、過程を理解し、説明することができる。 ・リハビリテーションにおけるチーム医療、法律および制度を区別することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕 Teamsで配布					〔準備学習・時間外学習〕						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	リハビリテーション（Rehabilitation）の定義・歴史					リハビリテーションの定義と歴史を理解・説明ができるようになること					
2	ノーマライゼーション、ICIDH・ICF					ノーマライゼーション、ICFについて理解・説明ができるようになること					
3	急性期・回復期・生活期リハビリテーション					各リハビリテーションの役割について理解・説明ができるようになること					
4	グループワーク発表①					積極的なディスカッションを通して、発表者の理解ができるようになること					
5	回復期リハビリテーション					回復期のリハビリテーションについて理解・説明ができるようになること					
6	チーム医療					チーム医療について理解・説明ができるようになること					
7	医療保険制度・診療報酬制度					医療保険制度・診療報酬制度について理解・説明ができるようになること					
8	グループワーク発表②					積極的なディスカッションを通して、発表者の理解ができるようになること					
</											

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講 区分	前期	担当教員				
授業科目名								田原 和樹				
理学療法概論								必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）												
担当教員は長年、医療機関において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。理学療法の歴史や心構え、知識、技術を知ることが目的とする。												
〔到達目標〕 臨床で必要な理学療法の仕組みや流れ、知識を身に付ける。 理学療法の歴史や、理学療法士の身分や職域、臨床で行うことなどを理解する。												
〔使用教材、参考文献等〕 随時、資料を提供します。												
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)						
1	オリエンテーション/グループディスカッション振り返り					理学療法概論の概要、カリキュラムの流れを理解する。						
2	理学療法の定義、歴史、倫理的配慮 /理学療法評価法実技①-1					理学療法の定義、歴史、倫理的配慮、構成する各種技術の理解を深める。						
3	理学療法に関わる法律・制度、職域、チーム医療 / 理学療法評価法実技①-2					理学療法に関わる法律・制度や、理学療法士の職域、チーム医療に関わる職種を理解する。						
4	理学療法の実施過程 /理学療法評価法実技②-1					理学療法の実施過程と臨床推論、報告書やクリニカルパスに関して理解する。						
5	理学療法の対象、領域 /理学療法評価法実技②-2					理学療法士が関わる対象者、理学療法の関わる社会的領域に関して理解する。						
6	肢体不自由、内部障害に対する理学療法 /理学療法評価法実技③-1					各種障害に対する理学療法の内容や流れを理解する。						
7	理学療法士の職能、世界における動きと日本の理学療法教育の変遷 /理学療法評価法実③-2					理学療法士の世界や日本における職能団体や教育制度を理解する。						
8	期末試験					1～7回の内容を理解できているか確認する。足りない部分を把握する。						
〔評価について〕 評価は、期末試験で行う。 期末試験で行われる実技試験を合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 授業の中で実技等を行う時もある。							

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部							
授業科目名		学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
						田原 和樹			
基礎理学療法セミナー		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
1.専任講師及び外部講師による臨床現場での理学療法士の実務内容を講義および実技形式で学習する。 2.専任講師及び外部講師の講義により、理学療法士としての身構え、気構えを理解する。 3.理学療法評価概論と連携した実技形式の学習となる。									
〔到達目標〕									
1.理学療法士の臨床現場での役割り、必要とされる資質を理解し習得する。 2. 理学療法評価に必要な検査の目的や手順を説明できる。									
〔使用教材、参考文献等〕									
理学療法評価学 第6版補訂版、徒手筋力検査法第10版									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	徒手筋力検査			徒手筋力検査を模倣レベルで実施できるようにする。					
2	徒手筋力検査			徒手筋力検査を模倣レベルで実施できるようにする。					
3	実技試験			実際の患者を想定し徒手筋力検査を実施できる。					
4	徒手筋力検査			徒手筋力検査を模倣レベルで実施できるようにする。					
5	徒手筋力検査			徒手筋力検査を模倣レベルで実施できるようにする。					
6	徒手筋力検査			徒手筋力検査を模倣レベルで実施できるようにする。					
7	徒手筋力検査			徒手筋力検査を模倣レベルで実施できるようにする。					
8	実技試験			実際の患者を想定し徒手筋力検査を実施できる。					
9	徒手筋力検査			徒手筋力検査を模倣レベルで実施できるようにする。					
10	徒手筋力検査(※木曜日の復習)			徒手筋力検査を模倣レベルで実施できるようにする。					
11	実技試験			実際の患者を想定し徒手筋力検査を実施できる。					
12	徒手筋力検査			徒手筋力検査を模倣レベルで実施できるようにする。					
13	徒手筋力検査			テストに向けて復習の時間を設ける					
14	徒手筋力検査			テストに向けて復習の時間を設ける					
15	実技試験			実際の患者を想定し徒手筋力検査を実施できる。					
〔評価について〕				〔特記事項〕					
評価は課題50点・実技確認50点で計100点満点で行う。 実技確認は毎回の実技への取り組む姿勢、出席率等を総合的に評価する。 評価は学則規定に準ずる。				毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリント、資料の配信による授業を行なう。					

2025年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科Ⅰ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名	理学療法評価概論		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

担当教員は、長年医療機関において様々な疾患に対するリハビリテーションの実践に携わってきた理学療法士である。本講義では、理学療法の対象となる障害の範囲と性質及び各障害に対する理学療法評価の原理・信頼性・妥当性を理解することを目的とする。

〔到達目標〕

理学療法評価の総論と一般評価事項、形態測定、関節可動域測定・筋力測定を学び、実技に繋がるように知識を身につける。

〔使用教材、参考文献等〕

理学療法評価学 改訂第6版

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 総論Ⅰ	理学療法評価について理解する
2	総論Ⅱ 小テスト①	理学療法評価について理解する
3	各論 第1章 一般的評価事項 小テスト②	患者の全体像の把握するための一般的評価事項について理解する
4	各論 第2章 バイタルサイン 小テスト③	バイタルサインについて理解し、評価法を身につける
5	各論 第3章 形態測定 小テスト④	身体の形態について理解し、計測法を身につける
6	各論 第4章 関節可動域測定 肩甲骨～肘 小テスト⑤	関節可動域測定について理解し、測定法および評価法身につける
7	各論 第4章 関節可動域測定 肘～体幹 小テスト⑥	関節可動域測定について理解し、測定法および評価法身につける
8	各論 第4章 関節可動域測定 予備日	関節可動域測定について理解し、測定法および評価法身につける
9	前半まとめ 30点	前半部分でのテストを実施します。
10	各論 第5章 筋力検査 概論 小テスト⑦	筋力について理解し、測定法および評価法を身につける
11	各論 第5章 筋力検査 概論 小テスト⑧	筋力について理解し、測定法および評価法を身につける
12	各論 第5章 筋力検査 各論 小テスト⑨	筋力について理解し、測定法および評価法を身につける
13	各論 第5章 筋力検査 各論 小テスト⑩	筋力について理解し、測定法および評価法を身につける
14	各論 第5章 筋力検査 各論	10回目から14回目までの復習をして、測定法および評価法を身につける
15	後半テスト 40点	筋力測定についてまとめテストを行います。

〔評価について〕

成績評価について

小テスト 3点×10回＝30点

前半まとめテストと後半まとめテスト

前半と後半の合計で70点

小テストと合わせ合計100点で算出

〔特記事項〕

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅰ部		学年		1年		開講区分		後期		担当教員		樋口 美幸	
授業科目名				必修・選択		必修		授業形態		講義		時間数(単位)		30(2) 授業回数 15	
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する） 大学病院で神経難病の理学療法に従事した経験のある理学療法士が授業を担当する。リハビリテーション医療職として必要な運動機能に対する正しい知識を学ぶ、また運動機能との関連性を理解しながら実際の姿勢観察や動作介助誘導、起居動作指導のための基本的な手技のポイントを学習する。															
〔到達目標〕															
静止姿勢の動作観察から姿勢アライメントの評価に必要な所見を診ることができる。運動学バイオメカニクスの基礎(姿勢と構え、支持基底面と重心、テコの原理など)を理解する。またそれらと実際の動作との関連性を理解する。基本的起居動作の動作介助法、動作指導のための基本的手技のポイントを習得する。															
〔使用教材、参考文献等〕															
姿勢アセスメント（医歯薬出版）、観察による歩行分析（医学書院）															
回	〔授業概要〕							到達目標(できるようになること)							
1	オリエンテーション 姿勢と動作、姿勢評価序論、準備、標準的アライメント							姿勢と動作の関連を理解する。姿勢評価の意義、準備、手順、標準的アライメントについての知識を得る							
2	後方からの姿勢評価<前半>：学習と演習①							後方からの姿勢評価（上半身）の観察点について理解する。学生同士実際に行い技術習得を図る。							
3	後方からの姿勢評価<後半>：学習と演習②							後方からの姿勢評価（下半身）の観察点について理解する。学生同士実際に行い技術習得を図る。							
4	側方からの姿勢評価：学習と演習③							側方からの姿勢評価の観察点について理解する。学生同士実際に行い技術習得を図る。							
5	前方からの姿勢評価：学習と演習④							前方からの姿勢評価の観察点について理解する。学生同士実際に行い技術習得を図る。							
6	座位の姿勢評価：学習と演習⑤							座位の姿勢評価の観察点について理解する。学生同士実際に行い技術習得を図る。							
7	中間試験（静止姿勢の観察評価） ・レポート課題完成☑							静止姿勢の観察評価について中間試験を実施し学習到達度をはかる。課題レポートの完成を目指す。							
8	レポート課題提出。動作評価の基本的視点							レポート課題提出。動作の観察評価の基本的視点を学習する。							
9	姿勢と動作(1)寝返り:基本的起居動作演習①							起居動作のボディメカニクスについて理解する。寝返り動作誘導介助の技術を習得する。							
10	姿勢と動作（２）起き上がり：基本的起居動作演習②							姿勢変換介助のポイントを学習する。起き上がり動作の誘導介助の技術を習得する。							
11	姿勢と動作（３）四つ這い、膝立ち、立ち上がり：基本的起居動作演習③							四つ這いや膝立ち、立ち上がり動作の誘導介助技術を習得する。							
12	ボディメカニクスの原則・起居動作（寝返り動作）の要点							起居動作と支持基底面と重心、テコの原理など寝返り動作に関連するボディメカニクスについて理解する							
13	起居動作（起き上がり動作・座位・立ち上がり動作）の要点							起き上がり動作・座位・立ち上がり動作の誘導介助のポイントを理解する							
14	歩行の観察評価							歩行の基礎知識と観察評価について理解する							
15	期末テスト解説							テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。							
〔評価について〕							〔特記事項〕								
評価はレポート課題と筆記試験で行う。 筆記試験は課題レポート(20点)と中間テスト(40点)期末テスト(40点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。							毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ予め印刷をしたり、タブレット等で記入できるように準備しておくこと。実技演習もあるため手足の出しやすい動きやすい服装で講義を受講すること。								